

第5講 空間ベクトル

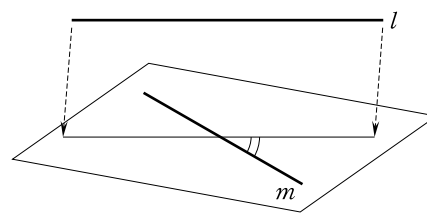
1 平面，直線の位置関係

A 空間の2直線のなす角

空間における異なる2直線 l, m について， l, m のなす角を考える．

まず， $l \parallel m$ のときは，2直線のなす角を 0° と定める． l と m が平行でなく，かつ交わらないとき， l と m はねじれの位置にあるという．

ねじれの位置にある2直線に関しては，図のようにいずれかの直線を平行移動して，交わるようにしてからなす角を考えればよい．



(注) 2直線のなす角 θ は通常 $0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ の範囲で考える．

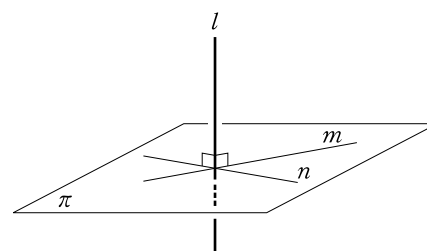
2直線 l, m のなす角が 90° のとき， l と m は垂直であるといい， $l \perp m$ とかく．特に，垂直な2直線が交点をもつとき，2直線は直交するという．

B 直線と平面の垂直

平面 π 上のすべての直線と直線 l が垂直であるとき，直線 l と平面 π は垂直であるといい， $l \perp \pi$ とかく．

このとき， l と π は直交するといい，さらに， l は π の垂線であるという．

直線 l と平面 π が垂直になるためには，平面 π 上の交わる2直線 m, n について， $l \perp m$ ，かつ $l \perp n$ が成り立てばよい．



平面 π 上の交わる2直線がいずれも l と垂直であるとき，直線 l と平面 π は垂直である．

2 空間ベクトル

A 空間におけるベクトルの分解

空間の4点 O, A, B, C が四面体の4頂点となる時、3つのベクトル $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}, \overrightarrow{OC}$ は1次独立であるという。

空間において、3つのベクトル $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ が1次独立であるとき、任意のベクトル \vec{x} は、

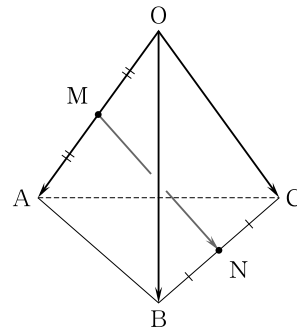
$$\vec{x} = r\vec{a} + s\vec{b} + t\vec{c} \quad (r, s, t \text{ は実数})$$

の形で表すことができる。しかもその表し方はただ1通りである。

例1 四面体 $OABC$ において、辺 OA の中点を M 、辺 BC の中点を N とすると、

$$\begin{aligned}\overrightarrow{MN} &= \overrightarrow{ON} - \overrightarrow{OM} \\ &= \frac{1}{2}(\overrightarrow{OB} + \overrightarrow{OC}) - \frac{1}{2}\overrightarrow{OA} \\ &= -\frac{1}{2}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OC}\end{aligned}$$

と1次独立なベクトル $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}, \overrightarrow{OC}$ を用いて表すことができる。



問1 四面体 $OABC$ において、辺 AB を1:2に内分する点を D 、辺 OC の中点を E としたとき、 \overrightarrow{DE} を $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}, \overrightarrow{OC}$ を用いて表せ。

B 平面上の点の表し方

同一直線上にない3点 A, B, C を含む平面 ABC 上に点 P があるとき、

$$\overrightarrow{AP} = s\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AC} \quad (s, t \text{ は実数})$$

と表すことができる。 $\overrightarrow{AP} = \overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OA}$, $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}$, $\overrightarrow{AC} = \overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OA}$ より、

$$\overrightarrow{OP} = (1-s-t)\overrightarrow{OA} + s\overrightarrow{OB} + t\overrightarrow{OC} \quad (s, t \text{ は実数})$$

と変形できる。さらに、 $r = 1-s-t$ とおくと、

$$\overrightarrow{OP} = r\overrightarrow{OA} + s\overrightarrow{OB} + t\overrightarrow{OC} \quad (r, s, t \text{ は実数}, r+s+t=1)$$

となる。以上をまとめると、

5・3 四面体 OABC があり,

$$OA = OC = 1, OB = 2, \angle AOB = 90^\circ, \angle BOC = \angle COA = 60^\circ$$

を満たしている.

- (1) 平面 OAB に関して点 C と対称な点を D とするとき, \overrightarrow{OD} を \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OB} , \overrightarrow{OC} を用いて表せ.
- (2) 線分 BC の中点を M とする. 平面 OAB 上を点 P が動くとき, 線分の長さの和 $CP + PM$ の最小値を求めよ.

5・4 1辺の長さが2である正四面体OABCがある。

(1) $\overrightarrow{OA} \perp \overrightarrow{BC}$ であることを示せ。

(2) 辺OA上に点Pを，辺BC上に点Qをとり，線分PQの中点をMとする。

点Pが辺OA上を，点Qが辺BC上をくまなく動くとき，点Mはある平面上を動く．点Mの動き得る範囲の面積を求めよ。